

私がなぜ現在の科目を選んだか

「呼吸器外科」

信州大学医学部外科学第二教室

中村大輔

小学生の頃は、医師と言えば手術をするものというイメージが漠然とあったように思います。それは年齢を重ね大学受験をする頃になっても、私の描く医師像の中に手術のシーンというのは常にあったと思います。そんな漠然としたイメージのまま医学部へ入学し、授業を受け、臨床実習に参加していましたが、やはり外科系の実習に興味を惹かれていました。それは手術ももちろんのこと、外科で働く諸先生方も非常に魅力的であり、将来は手術のできる科に進もうと考えていました。

初期研修は地元である長野市の病院で2年間研修しました。内科や救急科なども充実した研修をさせて頂き、外科系は消化器外科、乳腺内分泌・呼吸器外科、整形外科、脳神経外科と研修しました。中でも呼吸器

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科」

信州大学医学部脳神経外科学教室

花岡吉亀

手術によって患者さんを治したい。私が医師を志した時にイメージしていたのは漠然とした外科系の医師像であり、外科系医師を目指していました。しかし、実際に臨床の場に出るまでは「脳神経外科」は全く選択肢にありませんでした。私が医師になった頃には初期臨床研修医制度が既に始まっていたので、実際に現場を回り、どの科を選択するのか決めようと考えていました。

研修医1年目、神経内科をローテーションしていた際に、慢性髄膜炎の患者を担当する機会がありました。MRIではびまん性に髄膜が肥厚、増強されている症例でした。精査の結果、結核性髄膜炎が鑑別の最上位に考えられましたが、確診には至らず。脳生検を行う方針となり、手術室に立ち会うことになりました。その時に初めて脳を直近に見たのですが、脳的美しさに感動し、鳥肌が立ったのを生き生きと覚えています。

外科では縦隔腫瘍の執刀をさせて頂き、その頃から呼吸器外科という分野に興味を持ち、将来この分野を専攻しようという思いで研修させて頂きました。

呼吸器外科で扱う疾患の多くは肺癌ですが、ご存知の通り肺癌は日本人の部位別癌死亡率で1位の悪性腫瘍となっています。近年では、CT検診なども普及し、手術適応となる肺癌も増加傾向であり、これからますます需要の増える診療科ではないかと思っています。外科の魅力としては、やはり手術をして、元気な姿で退院していく患者様を多く診れるということに尽きると思います。自分が年齢を重ねれば手術ができなくなっていく将来のことも考えましたが、若くバリバリ働ける内に手術をしない診療科に進むと後悔すると思い、この呼吸器外科を選択しました。医師になり4年半が経過しましたが、まだまだ未熟で勉強中の身であります。手術を受けに来る患者様一人ひとりと真摯に向き合っ

て、これからも精一杯精進していきたいと思っています。
(秋田大平24年卒)

神秘的であり、魅惑的であり、神聖そのものでした。私が脳外科医になりたいと思った瞬間でした。初期臨床研修医2年目に脳外科を選択。さらに感興を深めたため、この道を選択することにしました。

実際に脳外科医になって思うことは、脳の大切さです。脳のダメージによっては、その人らしさが失われてしまったり、運動機能の障害や言語障害、意識障害が生じたりします。問題はそのダメージを負った人にだけ生じるのではなく、家族を含めた周囲にも大きな影響を与えます。故に、脳外科医は責任が重いと同時に非常にやりがいのある科です。

脳外科の手術は一朝一夕に身に付くものではなく、ある程度一人前に手術ができるようになるまでに時間を要します。手術は顕微鏡を使うことが多いのですが、術野で顕微鏡の角度はどうか、倍率はどうか、患者のポジションはどうか等々、実に奥が深いのです。脳外科の手術に関しては、職人の世界に通じるものがあると思います。簡単には一人前の脳外科医にはなれない。私が脳外科を魅力に感じている理由がここにもあると思っています。患者とその家族、脳外科と向き合っ

て、日々精進していきたいと考えております。
(三重大平17年卒)